

10年後の私へ



© 鹿児島県ぐりぶー・さくら

あの冬の空を覚えていますか。

灰色の雲のすき間から光が差し、白く大きな翼を広げたツルの群れがゆっ
くりと舞い降りてくる・・・その光景を、私は今もはっきりと覚えています。
私の町、出水には毎年一万羽をこえる天然記念物のツルがやってきます。そ
の鳴き声が響くと、冬の訪れを感じます。10年後、その声はまだ響いてい
ますか。

この夏、私は自由研究で発酵について調べた。ヨーグルトや納豆、ジンジ
ャーサイダーなどを作る中で、微生物の力で食べ物の味や香りが変わること
に感動しました。発酵の過程で二酸化炭素が発生することを知り、そこから
地球規模での二酸化炭素排出にも興味を持ちました。目に見えないその気体
が、地球の温暖化を進め、気候や自然を変えていると知ったとき、胸の奥が
ざわつきました。

実際、この夏は全国で水害が多く起きました。テレビの映像には、あっと
いう間に水かさが増え、川があふれ、土砂が流れて家を押しつぶす光景が映
っていました。そこに住む人々の日常が、ほんの数時間で壊されていく姿を
見て、心が痛みました。これも異常気象の影響だと思うと、決して遠い話で
はないのだと実感しました。

ツルは何千キロもの旅をして、毎年この町に戻ってきます。しかし、もし
地球がもっと温かくなり、餌場や湿地が失われれば、彼らはもうここに来ら
れなくなるかもしれません。その想像は、とても寂しく、そして怖いもので
す。だから私は小さな一歩を選びます。マイボトルを使う。使い捨てを減ら
す。電気を無駄にしない。そして、この思いを家族や友達に伝えていきます。
小さな行動の積み重ねが、未来の景色を変えると信じています。

10年後の私へ。あなたはこの約束を覚えていますか。冬の空にツルが舞
い、澄んだ空気を胸いっぱいに吸い込みながら生きていますか。

そして、10年後の地球を生きるみなさんへ。

一人ひとりの小さな選択が、未来の自然を守ります。どうか便利さを求めるのではなく、自然と共に生きること忘れないでください。地球は私たち全員の家。その家を壊すのも守るのも、私たち次第なのです。

未来はまだ真っ白の紙のように広がっています。

私たちの手でそこに希望の色を描き、ツルの舞う空を守り続けていきまし
ょう。どうか忘れないでください。地球は私たちからの借りものではなく、



未来の子どもたちへの贈りものです。その贈りものを、
必ず美しいまま手渡せるように。

出水市立米ノ津中学校 2年 福永 蘭子